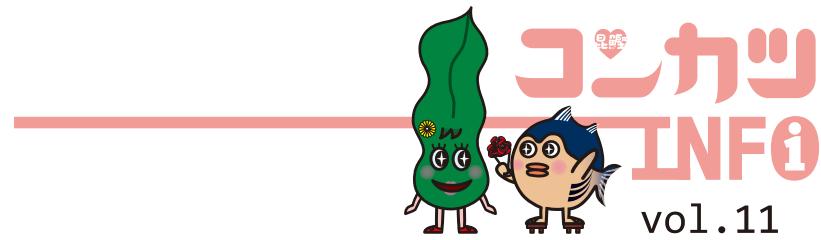




出汁之介の わっかない通信

日本最北の地「宗谷岬」

僕の住む稚内市は、日本最北に位置するまちです。枕崎のみんなももちろん知ってるよね？そして日本最北の地である宗谷岬には「日本最北端の地の碑」という記念碑があるんだ。北極星の一稜をモチーフにしてい、中央の「N」は北を、台座の円形は「平和と協調」を表しているよ。天気の良い日には約43°先のサハリンの島影を見ることができて、日本の最北端であることが実感できる場所なんだ。夜間はライトアップがされて、特に、雪に映える冬の夜景は幻想的で素敵だよ。宗谷岬には、ほかに間宮林蔵の立像や宗谷岬音楽碑もあって、観光スポットの中で1番人気なんだ。枕崎のみんなも、来ないば、宗谷岬！



全国的にも珍しい南方神社に並んで立つ夫婦の鳥居。それぞれの鳥居の先にある本殿には、建御名方神（タケミナカタノカミ）とその妃神である八坂刀売神（ヤサカトメノカミ）が祀られています。

コンカツプロジェクト協議会では、この夫婦鳥居を縁結びスポットとしてオススメしており、コンカツスタンプラリー（通年開催）のスタンプポイントにもなっています。

昨年末、記念撮影で縁を深めてもらおうと、南方神社に「昆鯉顔出し看板」を設置しました。看板は夫婦鳥居の近くにあり、建御名方神と八坂刀売神が鯉節と昆布を手に入っている姿がデザインされています。



昆鯉顔出し看板



夫婦鳥居をバックに恋人や家族、友達同士で記念撮影して縁を深めてはいかがですか。

また、南方神社には縁を取り持つという昆鯉絵馬もあるので祈願してみてください。

問合せ コンカツプロジェクト協議会事務局（水産商工課内） TEL72-1111・内線421

記念撮影で縁を深めて コンカツ 南方神社に昆鯉顔出し看板



You(あなた)と**I**(私)が互いに支え合い、尊重しながらともに歩んでいける社会をめざすため、男女共同参画について考えるコーナーです。

■問合せ 企画調整課政策推進係 TEL72-1111(内線219)

■女性活躍推進法とは？

女性活躍推進法は、少子高齢化や人口減少等による労働力不足が懸念される中、女性の採用や昇進に向けた取り組みを促進し、現在働いている女性、または、これから働こうとしている女性を後押しする法律です。

この法律では、国・地方公共団体や従業員301人以上の企業には、女性活躍を推進するための取り組みと数値目標を盛り込んだ行動計画の策定、労働局への届出、周知、公表が義務付けられています（従業員300人以下の企業は努力義務）。これを踏まえて企業等では、採用者の女性比率、勤続年数の男女差、残業時間を含む労働時間の状況、管理職の女性比率などについての現状を分析し、課題を改善するための計画を策定しています。

法律施行からの1年で、計画策定が義務付けられた企業等においては、策定率はほぼ100%となり、女性活躍の推進に向けた取り組みは少しずつ前進しているといえます。

■鹿児島県内の取り組み状況

鹿児島県内には、従業員301人以上の企業が171社あり、すべての企業が労働局へ計画を届け出ています。一方、計画策定が努力義務である従業員300人以下の企業で届け出たのは34社で、全体の0.06%程度にとどまっています。県内を全体的にみると、取り組みはまだまだ浸透していないようです。

枕崎市内の状況を見ると、計画を策定し、年次有給休暇の取得率の向上や職場環境の改善に取り組んでいる企業が数社あります。また、枕崎市役所においても、各役職段階の女性職員割合、男性職員の育児休業取得率などの数値目標を掲げた計画を策定し、取り組みを進めています（数値目標等は、市ホームページ、または広報まぐらぎ平成29年3月号をご覧ください）。

■女性活躍の推進のために

「女性活躍」といっても、女性に一方的に役割や仕事を任せればいいというわけではありません。職場や社会等で女性活躍の必要性を理解し、女性だけでなく男性も働き方を見直し、変えていかなければなりません。

そのためには、長時間労働の是正や年次有給休暇の取得促進などの「働き方改革」が必要となってきます。

性別にかかわらず、誰にとっても働きやすく、生活しやすい社会にするためにも、自分の働き方をもう一度見つめ直してみませんか。

男女共同参画週間

6月23日から29日は、男女共同参画週間です（詳細は14ページに掲載）。この週間を機会に、これまでの自分の働き方や生活を振り返ってみましょう。



地域おこし協力隊 活動レポート

こしたこづ ひとっもんど！

皆さんこんにちは！昨年4月から田布川町で活動しています地域おこし協力隊第1号の前永俊輔です。今月から地域おこし協力隊の活動をこのコーナーで報告することになりました。ぜひ毎月チェックしてみてくださいね。



今月の報告は
前永俊輔 隊員



5月21日に田布川町で、子どもたちと蛍の放流会を行いました。約200名が集まり、地域の方々と造成したビオトープ（生物生息空間のこと。私たちの場合は蛍の生息できる小川を整備しました）に約250匹の蛍を放流しました。

子どもたちは初めて見る蛍に、大人は童心を思い出すようにそれぞれ歓声があがっていました。それぞれの想いをのせて飛び立つ蛍はなんとも幻想的でした。

この蛍たちが卵を産んで、来年はもっと飛んでくれればいいなあ。

